

事例11

< 事例概要 >

①30歳代前半/ 経産婦（帝王切開術歴あり）/ 自然妊娠。

②癒着胎盤の可能性について術前に説明。

③予定帝王切開術で児娩出。胎盤の一部が遺残したため、癒着胎盤と診断し、子宮摘出術を実施。術中出血量 3,000 mL 以上。

児娩出から約 2 時間半後に赤血球液の投与を開始。児娩出から約 4 時間半後、血圧低下と頻脈を認めた。児娩出から約 6 時間後に新鮮凍結血漿の投与を開始。児娩出から約 9 時間後、洞性頻脈と診断。児娩出から約 12 時間後、痛みの訴えがあり再度鎮痛薬（ペンタゾシン）を投与した直後に意識レベル低下、心停止。腹腔内出血を認め、児娩出から約 16 時間後、再開腹術を実施。腹腔内出血が持続し、Interventional Radiology（画像下治療）を実施。児娩出から2 日後に死亡。

④癒着胎盤。

⑤解剖有、死亡時画像診断（Ai）無。